

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「多様なニーズで高校教育を求める生徒」を受け止め、一人ひとりが自分のペースに合わせて学習できる学校

- 1 通信制という学びのスタイルを通して柔軟な学習システムを提供する。
- 2 人権を尊重し、生徒一人ひとりが責任を持ち、支え合い、安心して学べる学校。
- 3 「確かな学力」を定着させ、自尊感情を育て、ひろく社会に貢献できる人材を育成する。

2 中期的目標

1 通信制で学ぶ生徒層の変化に対応する教育システムの確立

- (1) 生徒実態の把握 (学力、生活、健康)
 - (2) 将来構想の具体化を推進するための校内運営組織の更なる強化
 - (3) 生徒の実態やニーズを見据えた学校体制の見直し
 - ア 生徒の実態や生徒・保護者のニーズを見据えた・募集人数の在り方と広報の検討
 - イ 教育振興基本計画、府立高等学校再編整備方針に基づいた通信制の機能強化についての検討
 - ウ 単位修得のための環境整備 (校務処理の安定的な運用)
- ※ 充実した運営委員会を開催し、そのメンバーからなる将来構想検討チーム (新規) 及び学校評価チームを機能的に運営し各種課題解決を図り 2020 年度には卒業予定生の卒業率 75%以上をめざす。(平成 29 年度 72.9%)
- ※ 学力実態の把握に向け、レポート課題における解答等の分析を通して学力実態把握に努める。
- ※ 教育振興基本計画、府立高等学校再編整備方針に基づいた通信制の機能強化について大阪府教育庁と協議を継続する。

2 「確かな学力」「豊かな人間性」の育成とその実現に向けた教職員の資質向上

- (1) 基礎的・基本的な学力の定着をめざした教育課程の検討・編成
- (2) 全ての科目における生徒実態に見合ったレポート、スクーリング内容及び指導法の検討と改善
 - ア 学習の理解が深まり、達成感の得られるレポートの作成及び添削指導
 - イ レポート作成に役立つスクーリングの展開
 - ウ 公開スクーリングの実施と研究スクーリングの充実
- (3) 生徒の状況に合わせた多様な学習スタイルの検討・導入
 - ア 基礎学力不足の生徒に対するさらなる学習支援策の検討・確立
 - イ スクーリングに出席できない生徒等のサポート体制

⇒NHK 高校講座の利用や I C T を活用した e-ラーニングによる教育システム (スタイル) の研究、試行、実施
 - ウ 進学希望者並びに各種検定試験等に対する学習支援策の検討・確立
- (4) 人権尊重の教育の推進
 - ア 3 年間を見通した人権教育計画の実施
- (5) 教職員研修の充実

※ 生徒向け学校教育自己診断におけるレポート、スクーリングに関する肯定的評価を毎年 3%ずつ向上させ 2020 年度には 90%をめざす。

※ 転任者研修とミドルリーダー研修を実施し、教職員の資質向上に組織をあげて取り組む。

※ 教職員の人権研修を計画的に実施し、人権尊重の感覚を充実させる。

※ 初任者等経験の少ない教職員の校外研修への積極的な参加や校内初任者研修の充実を図り、「学校全体で育成する体制が取られている。」の肯定的評価を 2020 年度には 90%をめざす。

3 生徒支援と相談体制の強化・充実

- (1) 生徒及び保護者 (未成年生徒の) との面談・懇談や相談会の実施及び支援体制の充実
- (2) 要配慮生徒をはじめとする生徒情報の収集と共有及び危機管理体制の強化及び対応についての情報交換の充実
- (3) 疾病や障がいに対する理解を深めるための勉強会や研修会の実施
- (4) 精神科医及び臨床心理士や S C 等との連携、福祉・医療等の連携可能な外部機関との連携パイプ作り

※ 生徒向け学校教育自己診断における「気軽に、質問や相談をすることができる先生がいる。」の肯定的評価を 2020 年度には 75%をめざす。

※ 生徒向け学校教育自己診断における「安心して学校生活を送れている。」の肯定的評価を 2020 年度には 95%をめざす。

4 卒業後の進路を見据えた進路指導の充実

- (1) 生徒の実態に応じたソーシャルスキル教育及びキャリア教育の検討・実施
- (2) 進学希望者及び就職希望者に対する支援対策の充実及びそれに向けた教職員研修の実施
- (3) 3 年間を見据えた進路指導計画の策定

※ 教職員向け学校教育自己診断における「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている。」の肯定的評価を 2020 年度には 80%をめざす。

※ 生徒向け学校教育自己診断の「将来の進路や生きがいについて考える機会がある。」について肯定的評価を 2020 年度には 75%をめざす。

5 情報発信・広報活動の充実及び防災教育の取組

- (1) 情報発信の充実
 - ア 学校 HP、携帯連絡メール (桃通メール)、桃谷通信の内容充実
 - イ インフォメーションディスプレイの活用
- (2) 広報活動の充実
 - ア 学校説明会の充実
- (3) 防災教育の取組
 - ア 防災計画の策定及び実践的な避難訓練の実施
 - イ 安全で安心な学校づくり

府立桃谷高等学校
(通信制の課程)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>○ 生徒向け学校教育自己診断については、「気軽に、質問や相談をすることができる先生がいる。」の肯定率が昨年度の 69%から 65%に低下した。通信制なので、毎日登校することがなく生徒の実態を把握しにくいいため、様々な機会を捉え生徒とのつながりを深めていくことが重要である。</p> <p>また、「安心して学校生活を送れている。」の肯定的率が、昨年度の 87%から約 1 ポイント低下したが、その内訳では、「3」より「4」が多くなっている。今年度は極力、門扉を閉めていたことも起因すると思われるが、しばしば門扉が全開の時があり、生徒からの不安の声も聞かれた。今後さらなる改善が必要であると思われる。</p> <p>○ 教員向け学校教育自己診断では、「学習意欲の高い生徒に対する学習指導を個に応じて行っている。」の肯定率が、昨年度 63%から 65%となり、若干上昇した。しかし、この部分について教員の課題意識は高い。日々のスクリーニングやレポート添削では、どうしても基礎的な学習に傾いてしまうため、これまでも進学講習等を実施してはきたが、設定した日に生徒が来ないことや生徒の学力差が大きいことなどから、効果が得られにくいという状況があった。そのため、次年度の学校経営計画 2 『『確かな学力』『豊かな人間性』の育成とその実現に向けた教職員の資質向上』の(3)のウに新規の目標として「学習意欲の高い生徒に対する学習支援策の検討・確立」という項目を掲げた。日々の学習活動や年間のスケジュールの中で工夫できることはないか、ということを次年度に検討していきたい。</p> <p>もう 1 点は、「災害等に対し組織的に迅速かつ適切な対処ができています。」の肯定率が昨年度 61%から 55%に低下した。今年度、大きな地震や台風に見舞われ、組織的な対応について多くの課題が見つかった。危機意識の高まりを好機として、災害に対して備えていく必要がある。</p> <p>○ 保護者向け学校教育自己診断では「お子様は学校へ行くのを楽しみにしていますか？」の肯定率が 55.4%から 62.4%へ上昇した。本校には、不登校やいじめを受けた経験のある生徒が少なからず入学してくる。保護者の方々も様々な思いの中、本校を選択されたことと推察するが、この数値の上昇を励みとして、より良い学校となるよう教員一同、努力していきたい。</p>	<p>第 1 回 平成 30 年 7 月 4 日 (水) 15:00~17:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 昼夜逆転など、生徒の課題は日々変化していく為、本校だけでなく区とも情報交換を積極的にしながら協力して生徒を支えていきたい。 ○ 桃谷高校通信制の課程に対して、どういったニーズがあり、どこに課題があるのかという分析は、今後も続けて行っていただきたい。 ○ 通信制高校において生徒とのコミュニケーションはどのようにとっているのか。 → HR や遠足などの学校行事、クラブ活動等を利用して、生徒の反応や状況を把握するようにしている。 ○ 就職しない生徒には進路指導はどうしているか。 → ケースバイケースではあるが、生徒自身がどうしたいのかということを最重要とし、指導している。 <p>第 2 回 平成 30 年 12 月 18 日 (水) 15:00~17:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本語の苦手な子どもたちや保護者が増えてきている。通信制においてはどうか。 → 通信制という特性上、日本語が極端に苦手という生徒がいるとは聞いていない。 ○ ミドルリーダー育成のための校内研修組織「次世代桃通検討会議」において、検討したことや成果等の情報を、まとめて共有する仕組みはあるのか？また、私学の通信制や府立の定時制高校への学校訪問以外に取り組んでいることがあれば教えて欲しい。 → 学校訪問以外に、通信制教育に関する法律の理解を進める勉強会を実施している。検討内容や成果については、適宜、職員会議で発表している。 ○ 「要配慮生徒」の枠組みについて教えてほしい。その認定はどうしているのか？何か基準があるのか？ → 入学する際に全員が「高校生活支援カード」を提出する。ここで「支援が必要ですか」という項目にチェックがある生徒に対して支援をしている。担当が中心となって抽出した生徒、及び保護者を交えて個別の支援計画を策定し、全教員間で情報共有を行う機会を設けている。 <p>第 3 回 平成 31 年 2 月 1 日 (金) 15:00~17:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 卒業率について 73%は十分な数字だと思うが、まだ目標値をあげていく方針か。 → これは、卒業予定生のうちの卒業率であり、入学者に対する数値ではない。 ○ 中期的目標の 2 の (3) について、e ラーニングについての文言を外されているが、e ラーニングをしないということか。 → e ラーニングをしないということではない。この 3 年間は、再編整備の計画を具体化していくことに力をいれていきたいと考え、文言を外した。 ○ 中期的目標の中に、働き方改革のことについては入れなくてもよいか。 → 運営委員会に学校評価の機能を持たせてもっと強化したい。そこで、業務の偏りや改革すべき諸課題について引き続き検討を進め、業務の洗い出し等もしていきたい。 ○ 中期的目標の 2 の (3) のウについて、「さらに学びたい生徒への支援」という表現が抽象的すぎてわかりにくいのではないか。 → 具体的な文言に改めることを約束。後日、該当部分の表現を「学習意欲の高い生徒に対する学習支援の検討・確立」に文言修正したところ、委員全員の承認を得た。

府立桃谷高等学校
(通信制の課程)

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 通信制で学ぶ生徒層の変化に対応する教育システムの確立	<p>(1) 生徒実態の把握</p> <p>(2) 将来構想の具体化を推進するための校内運営組織の更なる強化</p> <p>(3) 生徒の実態や生徒・保護者のニーズを見据えたシステムの見直し</p>	<p>(1) 学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> 分析結果を次年度の経営計画に十分に反映させる。 実施時期を早めて、回答率の向上を図る。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 運営委員会を更に機能強化し、改革すべき諸課題について引き続き検討を進める。 運営委員会メンバーを核とした将来構想検討チーム及び学校評価推進チームの活動内容の充実を図る。 <p>(3) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 公立学校として府内唯一の通信制の生徒の実態を把握し、生徒・保護者のニーズの再確認及び通信制の機能強化について、引き続き校内議論を進め、大阪府教育庁に伝える。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> スクーリング出席管理システムの安定的な運用及び生徒ニーズに合った更なるシステム開発。(科目のスクーリング出席状況等をリアルタイムで把握でき、学習の進行管理の助けとする。担任は生徒の学習進行状況を常時把握できるシステムの構築) 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け自己診断の回答率の向上 (H29年度 12.4%) <p>(2) 運営委員会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 将来構想検討チーム及び学校評価推進チームの取組内容 <p>(3) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員研修の充実 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 現行システムの安定的な運用ができるようになったか。 生徒ニーズに合ったシステムの研究が進んだか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断を11月実施。生徒1743名中292名(昨年度比73名増)、保護者1226名中167名から回答。分析結果を教職員と共有し、次年度の教育計画に生かす。自己診断生徒回答率=回答者/活動性=16.8% (○) 将来構想検討チームの会議22回開催 (◎) 学校評価推進チーム会議は未開催 (△) 次世代桃通検討会議の研修を5回実施。定時制高校(7校)や私学の通信制への見学会(3校)も並行して実施。成果を職員会議にて共有 (◎) 生徒の個人情報扱う本校独自システムの恒久的な安定稼働のために、教育庁との協議により昨年度末に、本校通信制課程の全教員の端末を入れ替えた。今年度より統合ICT NW上で本校独自システムの安定運用を開始。(○) 次期統合ICT NWの更新に合わせた新システムの導入について、システム開発業者との打合せ及び教育庁との協議を引き続き進めた (◎)

府立桃谷高等学校
(通信制の課程)

<p>2 「確かな学力」「豊かな人間性」の育成とその実現に向けた教職員の資質向上</p>	<p>(1) 基礎的・基本的な学力の定着をめざした教育課程の検討・編成</p> <p>(2) 全ての科目における生徒実態に見合ったレポート、スクーリング内容及び指導法の検討と改善</p> <p>ア 学習の理解が深まり、達成感の得られるレポートの作成及び添削指導</p> <p>イ レポート作成に役立つスクーリングの展開</p> <p>ウ 公開スクーリングの実施と研究スクーリングの充実</p> <p>(3) 生徒の状況に合わせた多様な学習スタイルの検討・導入</p> <p>ア 基礎学力不足の生徒に対するさらなる学習支援策の検討・確立</p> <p>イ スクーリングに出席できない生徒のサポート体制</p> <p>ウ 進学希望者並びに各種検定試験等に対する学習支援策の検討・確立</p> <p>(4) 人権尊重の教育の推進</p> <p>ア 3年間を見通した人権教育計画の実施</p> <p>(5) 教職員研修の充実</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 次期学習指導要領を見据えた、各教科・科目の開設の検討 <p>(2)</p> <p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断結果の分析を通し、レポート作成及びスクーリング内容及び指導法の改善を行う 教科会議の充実と教科・科目の取り組み目標を明確にする。 レポート及びテスト内容の点検、改善体制の検討を教科会等を活用して実施する。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 全スクーリングの公開化。 スクーリング見学期間の実施及び研究スクーリング並びに研究協議の充実 (年2回 1範囲と2範囲で実施) <p>(3)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自身の申請による基礎学力充実のための取組みの検討・実施(質問会・補充・補習等)。 面接指導エリアの整備・充実 学習相談コーナーの設置・充実 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTを活用したe-ラーニングによる教育システムの試行 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 国・数・英の進学者対象講習等の実施 <p>(4)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> HR等を活用し、すべての教育活動を通して、人を思いやる豊かな人間性を育む <p>(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> 転任者研修(新規)等を活用しスクーリング力向上並びに添削力向上を目指す。 ミドルリーダー研修の実施(新規) 初任者等経験の少ない教員の授業力向上に向け、校外研究授業への積極的参加の奨励 校外研修参加教員による、報告会の実施 業務の生産性向上につながる校内研修の実施 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育課程検討会の開催 <p>(2)</p> <p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> レポート添削評価 3.1以上1%向上(H29年度第1回 88.4%第2回 86.0%)、スクーリング評価 3.3以上が1%向上(H29年度 S91%)。 学校教育自己診断レポート添削・スクーリング内容について、肯定的評価がそれぞれ 90%以上(H29年度 R88%、S91%) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施率(100%)(H29年度 100%) 見学感想票の提出率 100%(H29年度 100%) <p>(3)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 講習会・質問会等への参加生徒数 自己診断「到達度の低い生徒に対する学習指導を、個に応じた観点で工夫して行っている」の教員意識の向上(H29年度 76.5%) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> e-ラーニングによる教育システムの試行ができたか。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 講習会の開催と参加生徒数(H29年度 36名) <p>(4)</p> <p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年間の人権 HR 計画作成済み、計画通り実施(○) 保護者自己診断「いじめの話聞くことがあるか」(H29年度 0.92%) <p>(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> 2(2)ア、イの指標と同様 年間約 10 回開催 研究授業への参加人数(回数)(H29年度 12回) 研修報告会の件数(H29年度 8回) 学校教育自己診断「校内研修は業務に役立つ内容となっている」肯定的評価 65%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 2回実施。 (教科用図書の検討、教育課程・シラバスの検討)(○) レポート評価 3.1以上 (H29年度平均 87%、H30年度 88%)(○) スクーリング評価 3.3以上(H30年度 85%)(△) 学校教育自己診断レポート添削 肯定的評価(H30年度 90%)(◎) 学校教育自己診断スクーリング肯定的評価(H30年度 92%)(◎) 1範囲にて 12教科中 4教科で実施した(△) 研究協議の在り方について今後検討していく(△) 質問会(4回実施) 379名参加(○) 自己診断「到達度の低い生徒に対する学習指導を、個に応じた観点で工夫して行っている」についての教員の意識は 78%(◎) TV放映以外のメディアによる視聴代替として、オンライン配信ソフト(Uセミナー)を利用し、音声付スライド等を予定日時に配信するe-ラーニングシステムの試行実験を実施、25名までの視聴が可能(◎)。 国語(各教員個別に実施)、数学 2回、英語 5回(38名)(○) 3年間の人権 HR 計画作成済み、計画通り実施(○) 保護者自己診断「いじめの話聞くことがあるか」(はい H30年度 0.90%)(○) 転任者向け研修 4回実施(△) 研究授業参加回数及び参加人数(4回、27名)(△) ミドルリーダー育成のための校内研修組織である「次世代桃通検討会議」の研修を 5回実施。定時制高校(7校)や私学の通信制への見学会(3校)を並行して実施。成果を職員会議にて共有。(◎) 研修報告 11回実施(◎) 学校教育自己診断「校内研修は本校の教育課題に対応している」肯定的評価(H30年度 71%)(○)
--	--	---	--	---

府立桃谷高等学校
(通信制の課程)

3 生徒支援と相談体制の強化・充実	<p>(1) 生徒及び保護者(未成年生徒の)との面談・懇談や相談会の実施及び支援体制の充実</p> <p>(2) 要配慮生徒をはじめとする生徒情報の収集と共有及び危機管理体制の強化及び対応についての情報交換の充実</p> <p>(3) 疾病や障がいに対する理解を深めるための勉強会や研修会の実施</p> <p>(4) 精神科医及び臨床心理士やS C等との連携、福祉・医療等の連携可能な外部機関との連携パイプ作り</p>	<p>(1) 支援を必要とする生徒を抽出、「個別の教育支援計画」を作成し、担任・分掌が連携した組織的な支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中卒新入生の三者面談の実施 ・卒業予定生の三者面談の実施 ・生徒の居場所づくりの一環として、「ほとりカフェ」の効果的な運用 ・生徒が質問・相談しやすい職員室、面接指導室、相談室の環境整備 <p>(2) 健康調査の結果、必要な生徒に対しての個別面談や担任が行う面談等を通して生徒が抱える諸問題を明らかにし、教職員で共有する</p> <p>(3) 第1、第2範囲当初(5、10月)に研修会を開催、その他関連する勉強会を開催し、生徒の疾病や障がいに対する知識を深め、個々の生徒に応じた保健指導や生徒指導に活かす。</p> <p>(4) 本校生を多く担当している専門医・S Cや保護者と生徒の心身に重点を置いた連携を強化することで生徒支援を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談室の環境整備と広報の充実 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援生徒の学習活動の進行状況 ・中卒新入生の三者面談・保護者面談実施率 (H29年度 64.1%) ・卒業予定生の三者面談の実施(新規) ・学校教育自己診断の質問項目の「安心して学校生活を送れている」(H29年度 87.2%) ・「気軽に相談できる先生がいる」(H29年度 68.8%)の肯定率をそれぞれ1%アップさせる。 <p>(2) (3) 研修・勉強会等実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回の研修会の実施及び学校教育自己診断の質問項目の「学校生活についての先生の指導には納得できる」の肯定率の向上 (H29年度 91.6%) <p>(4) 面談、相談回数</p> <p>ケースワーク会議の実施回数 (H29年度ケース会議12回、相談回数20回、S C面談回数30回)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支援対象生徒46名中38名について情報共有している。(H30年度 83%) (○) ・中卒新入生の面談率 H30年度 29% (△) ・卒業予定生の面談状況 実施予定含めほぼ着手済 (○) ・学校教育自己診断の質問項目の「安心して学校生活を送れている」(H30年度 86%) (△) ・「気軽に相談できる先生がいる」(H30年度 65%) (△) ・2月5日に発達障がいについて職員研修を実施(△) ・学校教育自己診断の質問項目の「学校生活についての先生の指導には納得できる」の肯定率の向上 (H30年度 90%) (△) ・ケース会議20回、相談回数96回、SC面談回数68回、SSW面談回数16回 (◎)
4 卒業後の進路を見据えた進路指導の充実	<p>(1) 生徒の実態に即したソーシャルスキル及びキャリア教育の検討・実施</p> <p>(2) 進学希望者・就職希望者に対する支援対策の充実</p> <p>(3) 3年間を見据えた進路指導計画の策定</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A ーワーク創造館と連携を行い、キャリア教育を行う。(社会に出たときに必要な人間関係形成能力を身に付けるための講座を開設する。) ・学校全体で進路指導を実施するうえで教員向け進路指導説明会及び進路指導研修会の充実。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学希望者対象分野別説明会等の実施 ・進学希望者対象奨学金説明会等の実施 ・保護者向け進路説明会の開催 ・就職希望者対象分野別説明会等の実施 ・求人票閲覧会の開催 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HR並びに総合的な学習の時間を活用し、進路について計画的な指導を実施 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア前教育として実施する講座の開設講座数及び講座への参加者数 (H29年度2講座、41名) ・進路指導研修会の教員満足度 (H29年度 65.0%) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講習、進学関係説明会への参加者数 (H29年度参加者数221名) ・保護者向け進路説明会の開催と参加者数 (H29年度30名) ・就職関係説明会 (H29年度参加者数65名) ・就職希望者内定率 (H29年度 87.5%) <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導計画の策定(新規) 	<ul style="list-style-type: none"> ・70時間178名参加。(昨年度と異なる方法で実施)(◎) ・今年度は教員の研修を重視。外部研修にのべ7名参加 (◎) ・講習、進学関係説明会 のべ250名参加 (◎) ・保護者説明会 25名参加 (○) ・就職関係説明会 のべ420名参加 (◎) ・就職内定率 H30年度 100% ・策定中 (△)

府立桃谷高等学校
(通信制の課程)

<p>5 情報発信・広報活動の充実及び地域と連携した防災教育の取組</p>	<p>(1)情報発信の充実 ア HP、携帯連絡メール(桃通メール)、桃谷通信の内容充実</p> <p>イ インフォメーションディスプレイの活用</p> <p>(2)広報活動の充実 ア 学校説明会の充実</p> <p>(3)防災教育の取組 ア 実践的な避難訓練の実施 イ 安全で安心な学校づくり</p>	<p>(1) ア ・HPに全教科のページを設け、内容の充実を図る。 ・携帯連絡メール(桃通メール)を活用し、生徒・保護者への積極的な情報発信を行う。</p> <p>イ ・インフォメーションディスプレイの有効活用</p> <p>(2) ア ・少人数での説明会を実施しているので統一された内容の説明を行うため、説明会用スライド及び学校紹介用DVDの改善・充実。</p> <p>(3) ア、イ 生徒避難訓練及び教職員向け避難訓練の実施</p>	<p>(1) ア ・教科開設ページ100%(H29年度100%) ・HPへの年間アクセス数(H29年度135,655回) ・携帯連絡メール(桃通メール)への登録件数と発信回数(H29年度502件25回)</p> <p>イ ・インフォメーションディスプレイの更新頻度(H29年度毎日更新)</p> <p>(2) ア ・学校説明会等参加者へのアンケートにおける「説明の解り易さ」肯定的評価の向上(H29年度93.4%)</p> <p>(3) ア、イ ・自己診断「災害等に対し組織的に迅速かつ適切な対処ができている」の向上(H29年度61.2%)</p>	<p>・開設率100%。すべての教科で更新。(○) ・アクセス数105,217件(△) ・桃通メール登録件数H30年度657名、発信回数41回(◎) ・インフォメーションディスプレイは毎日更新(○) ・「説明の解り易さ」の肯定的評価(H30年度89%)(△) ・学校教育自己診断(教職員)の質問項目の「災害等に対し組織的に迅速かつ適切な対処ができている」(H30年度55%)(△)</p>
---	--	--	--	--